

## 7 内分泌代謝科フェロー研修要綱

指導責任者 濱島 崇

### ● 活動実績

常勤医	2名
フェロー	1名
外来延べ患者数	約430人/月、新患40人/月
入院患者数	常時約2~3人前後（時期により変動）

### ● 主な診療内容と特徴

内分泌代謝科では、身長の問題（低身長・高身長）、思春期の問題（思春期早発・遅発）、甲状腺、副腎、性腺、骨・Ca代謝、尿崩症、糖尿病、肥満などのすべての小児内分泌疾患、一部の代謝疾患の診療を行っています。

内分泌科は外来診療が中心の科で、外来診療は毎日行い、入院は検査入院が主となります。

内分泌代謝科の特色としては、上記にあげたような多様な内分泌疾患を診療できることが1つ。また、一般病院ではなかなか経験できない特殊な医療として、性分化疾患（DSD）に対する専門チームによる診療（小児内分泌科医、小児泌尿器科医、児童精神科医、臨床心理士、看護師などからなるチーム医療。中部地域では2施設のみ小児内分泌学会認定のDSD診療“中核施設”です。）、1型糖尿病患者様に対するインスリン皮下持続注入療法（CSII）、SAP療法、小児肥満に対するプログラム“アチェメック健康スクール”などを体験することができます。

### ● 研修内容

内分泌疾患は、症例によりバリエーションが多く、たとえ同じ疾患でも1症例1症例がすべて異なります。したがって、その病態を十分に検討し、その症例ごとに最善の治療法を考えていくことが、たいへん重要となります。そのため、外来日には外来終了後に、その日受診された症例のカンファレンスを毎回おこなっています。また、常に最新の知識を得るため抄読会と勉強会を週に1度ずつおこなっています。

学会発表については毎年、日本小児内分泌学会をはじめ主要な全国学会に演題発表を行っており、先生方の発表の応援もさせて頂いています。また、地域の研究会、多施設との勉強会などにも積極的に参加していますので、一緒に参加していただき、他施設の仲間と見識や交流を深めていただくことが可能です。

研修年数に関しては、基本2年ですが相談に応じます。当科は内分泌学会認定指導医が2人常勤で勤務しており、小児では数少ない日本内分泌学会教育認定施設の1つで、希望により3年間の研修で専門医試験受験資格を得ることが可能です。

内分泌が大好きで、意欲のある方、ともに学び、内分泌の世界に没頭してみませんか。